

30年の節目に法人化！

農業生産法人 (有)アップルファームさみず

Report

新会社の代表は会の牽引役、山下勲夫さん。30年前5人で始めた会も、今は事務局も含めて20人の大所帯。この間台風や電害、輸入自由化など様々な荒波を乗り越え、晴れの日である式典当日は、普段ねじりはちまきがトレードマークの山下さんもネクタイ姿でいささか緊張気味の様子でした。

「みなさんに支えられての30年。これからも私たちは進化していきます。後継者や過疎など、村の抱える課題

と共に、地域と一体となってがんばっていきたいと思います」。

熊本大学教授・徳野貞夫さんによる講演では「大転換を迫られている農業・農村」と題し農村社会学の視点から今後の都市農村の人口動態予測をベースに「ヒト」「クラシ」「モノ」「カネ」の連関と、農村社会のありかたについてのお話し。生産だけでなく生活の拠点としての地域が、今後どのように歩むべきか。フィールドワークを交えた先生のお話しは

熱を帯び、新たにスタートするアップルファームさみずの「進化」の方向性をより明確に照らし出したかのようでした。

場所を移して懇親会の会場では地元アーティストの坂口勇一さん・高橋志津子さんによる「草笛コンサート」。心地よい風が通り抜け、村を見渡す絶好のロケーションで、村の話、りんごの話がなごやかに進み、日が暮れていきました。(事務局・竹内)

若い衆カモーン!

番外編

田舎暮らしをしてみれば

長野県有機生産者連合 小宮山天経さん 29歳の巻長野県小諸市)

都会育ちの彼は中学の頃から有機農業を志し、農業高校卒業後19才で農家の川田氏に師事、念願の入植を長野県小諸の地に定め今年で7年。パートナーの奈穂さんとの間に2人の子どもをもうけ、独自で消費者との産直をしながら長野県有機生産者連合代表の清水さんと知り合い、昨年からはでっしゅの仲間になりました。

その彼が今年病気で倒れ、来年以降の営農継続に悩んでいるとの報らせを受けたのが7月末。Radixの会の役員にお見舞いを提案し、はげましのメッセージを届けに行ったのが8月11日でした。

まだ若いご夫婦。夢を共に7年村に過ごし、様々なストレスも重なっての入院。思っていたよりも大変なことの多い農業に、彼は人生の選択として今後をどうするか、考えざるを

得なかったそうです。

「田舎暮らしをしてみれば(林えり子著・集英社文庫)」という本で、「有機栽培に生涯を賭ける青年」と題して彼のことが紹介されています。農家に何のツテもない彼が就農にこぎつけたのはなんとテレビ出演。はっきりと「有機農業をしたい」と画面から宣言した彼を心に留めた農家の川田氏との付き合いが始まったとのことでした。

Uターン、Iターンによる新規就農の平均は30代。ある程度社会経験も積み、就農のための自己資金なども計画しての就農が成功のカギだとは受け入れ側自治体が異口同音に語るころ。20代で就農した彼を「農業は甘くない」と一喝するのはたやすいことですが、青年の志を「有機農業」に賭け、これからを悩む彼をま



ぶしく感じるのは、私たちががらでいっしゅぼーやとともに進め、よりよく育てていく「有機農業」が、それだけ美しく純粋なものを備えているからではないでしょうか？

天候や市場の変化、健康のことを含め農業には不測の事態がつきまっています。その彼が今後どんな人生の選択をしていくか、やさしく見守り、応援していきたいと思います。

(事務局・竹内)